

# 看護教育の 自己点検・自己評価

丹波市立看護専門学校

平成29年11月

## 看護教育の自己点検・自己評価

I 教育理念・教育目的					
評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
	1 教育理念・教育目的を表示した文書	○ 学校が目指す人材を育成していくためには、教育理念・教育目的を明確にして周知することは重要	学生便覧やキャンパスガイドに記載し、高校の進学説明会や企業主催の進学説明会で、教育理念・教育目的を積極的にアピールしている		学生便覧 キャンパスガイド 看護教育課程概要
	2 教育理念・教育目的がどのような考えから導き出されたかを記述した文書	○ 学校の設置主体、専門学校の果たす役割から理念・目的・目標を導き出す	丹波市のキャッチフレーズである“丹(まごころ)の里”を受け、暖かく思いやりのある、地域に根ざした看護師の育成を目指して文章化している		学生便覧 キャンパスガイド 看護教育課程概要
1. 法的整合性と独自性	3 関連する法律との整合性を検討した結果について記述した文書	○ 『養成所の運営に関するガイドライン』に基づいて、看護師国家試験の受験資格を得るための基準である、3年間で97単位、3000時間以上の授業を計画	3015時間、101単位の授業を計画し、3年間で履修できるようにカリキュラムを運営している		学生便覧 キャンパスガイド 看護教育課程概要
	4 養成所の個性・特徴・建学精神について記述した文書	○ 本校は、丹波市内で活躍できる看護師育成を目的に設立	卒業生を丹波市内の病院へ就職させることが必要であるが、病床改革の影響のためか、就職が難しくなってきた	他市からの入学生が多く、卒業後は地元に戻る学生が多い 卒業生の質の向上が必要	学生便覧 卒業生の動向
2. 教育理念・教育目的の意義と周知	5 学生及び教員が教育理念・教育目的をどのように認知し、学修及び教育活動に活かしているかを示すデータ	○ 教育の方向は、看護実践力のある看護師の育成であると周知 看護師に求められる資質を8つの視点から学修できるように考えている	看護教育課程概要に、看護実践力を育成するために必要な8つの視点を掲載し、学生・教員に周知 年度末には実習評価やカリキュラム評価を実施し、教務会議で検討		学生便覧 看護教育課程概要 看護領域別のカリキュラム評価
3. 看護専門職についての考え方	6 看護、看護専門職、看護基礎教育をどのように捉えているかを記述した文書	○ 看護師に求められる資質として、学校が考える8つの視点をカリキュラム構成図に提示	看護実践能力の育成を中心に、必要な能力を8つ挙げ、基礎分野から学習を積み上げながら、看護実践能力が花開くように表示		看護教育課程概要 カリキュラム構成図

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
4. 看護教育についての考え方		○ 看護に必要な基本的知識・技術・態度を修得して、看護実践者として社会貢献できる看護師を育成	患者の状況が適切に判断できるための知識の習得 ・定期的な学習会の実施 ・1年生から模擬試験の実施 患者に応じた看護実践が安全にできるように技術修得の強化 ・シミュレーター学習 ・技術練習の時間を確保 豊かな感性と人間性の育成 ・挨拶と笑顔 ・社会性の育成		看護教育課程概要 技術会議録 看護技術の到達表
5. 学習・教育観と学生観	7 学習者である学生の捉え方について記述した文書	○ 当校の受験資格は中等教育以上の教育を受けたものとして明記	基礎知識は中等教育以上であるが、高校卒業直後の学生、大学を卒業した学生、社会人を経験した学生など、学生の教育背景はさまざまである		入学案内 キャンパスガイド
	8 学生の学びを支援するための学習環境(特に教員・職員)について記述した文書	○ 臨床経験5年以上で、看護教員養成講習会を終了している教員を配置し、学習環境を整えることが必要	新任教員の転勤時には早期に看護教員養成講習会に参加 教員の転勤は看護教員養成講習会終了者の配置を依頼		看護教員養成講習会終了証
6. 教育理念・教育目標の評価	9 卒業時における学生の到達度を示す資料	○ 厚労省が提示している『実践能力と卒業時の到達目標』を参考に、卒業生の特徴を考える	年度末に、各看護領域毎で実習評価やカリキュラム評価を実施 実習では学生にアンケートを実施し、目標の到達度、学びの内容を評価	評価基準の作成	看護教育課程概要 看護学実習要綱
	10 教育理念・教育目的の点検・評価計画	○ 社会のニーズに応じた看護師の育成が必要 社会の動向、学生の変化に沿って見直し、修正が必要	年度末に、各看護領域毎で実習評価やカリキュラム評価を実施	評価基準の作成	会議の年間計画 看護教育課程概要

Ⅱ 教育目標					
評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
1. 教育理念・教育目的との一貫性	11 教育目標及びその目標設定の意図を記述した文書  →学則、履修要覧 入学案内	○ 理念と関連させ、地域に根付いた看護実践者の育成	カリキュラム改正に伴い、理念・目的・目標を見直し修正	評価基準の作成	学生便覧 看護教育課程概要 キャンパスガイド
2. 目標内容の側面と到達レベルの側面		○ 8つの視点を軸にして『看護実践能力』の育成を考え、教育内容を精選	教育目標と主要概念等を整合させてマトリックスを作成し、関連科目や到達目標を明記		看護教育課程概要 看護領域別のファイル 看護領域別カリキュラム評価
3. 設定意図とその明確性、実現可能性		○ 看護実践能力の育成を強化し、理念と関連させて、地域に根付いた看護実践者を育成	カリキュラム構築の考え方を文章化し、資料を作成		看護教育課程概要
4. 教育目標の評価		○ 具体的な教育活動につなげていけるような内容が必要	年度末に実習評価やカリキュラム評価を各看護領域毎に実施し、見直し修正		看護領域別のファイル 看護領域別カリキュラム評価
5. 継続教育との関連	12 卒業時の看護実践力の到達状況	○ 卒業時の看護実践能力の到達状況を明確にすることで、卒業後の『新人看護職員』の研修に活かすことができる	知識は、客観的試験を実施 技術は、チェックポイント用いて 反復練習が必要な技術をピックアップして習得に努めている 実習別・領域別の技術の実施基準を作成	卒業後の技術チェックポイントの活用方法	技術会議記録
	13 国家試験の合格状況	○ 国家試験の結果を在学生に講評することで、学習の動機付けができる	全国と本校の国家試験合格状況を学生に提示し、教員には、業者が提示する国家試験評価を配布して学生への指導に活用 1年次より国家試験対策を計画・実施 1月に3年生への補習講義を実施	国家試験合格率の変化を確認して、補習講義の有効性を評価	国家試験ファイル

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
	14 就業後の就労状況に対する施設側の評価	△ 施設評価を受けて、教育方法を見直すことが必要	卒業生の就職先を設置主体に分けて一覧にして、就職状況を明記 一部の施設からは卒業生状況の情報を取得	卒業生の就職した施設へアンケートを行い、卒業後の情報を確認する予定 (卒業後 3ヶ月、6ヶ月、1年)	卒業生就職状況ファイル
	15 卒業生の看護実践力についての自己評価	△ 学校と臨床の解離を最小限にしていくためには、臨床現場からの生の声を聞くことが効果的	Came Homeする学生から情報を得ている	卒業生全員にアンケートを行い、卒業後の情報を確認する予定 (卒業後 3ヶ月、6ヶ月、1年)	
	16 卒業生の専門分野における認定資格の取得状況や大学・大学院への入学・編入学状況	△	卒業時の状況は把握できているが、卒業後に取得している内容は把握できていない	卒業後の情報をどのように確認していくのか	卒業生就職状況ファイル
	17 目標設定と継続教育との関連性について記述した文書	×	記述された文書はない	教育目標と継続教育の関係性を文書化	

Ⅲ 教育課程経営						
評価項目	資料（データ）		考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
1. 教育課程経営者の活動	18 教育課程編成委員会等の目的、機能、役割を示した文書	○	学習効果が高い教育をしていくためには、定期的に教育課程を改善していくことが必要	平成17年度にカリキュラム委員会を立ち上げ、委員会の目的・機能・組織を文書化 定期的に会議を実施		カリキュラム会議録
	19 編成した教育課程の評価と教育課程改善の考え方を示した文書	○		定期的にカリキュラム会議を実施してカリキュラム内容を見直し修正 年度末には、各看護領域毎に実習評価やカリキュラム評価を実施し、見直し修正		カリキュラム会議録
2. 教育過程編成の考え方と具体的な構成	20 教育課程編成の考え方と具体的な構成を示した文書	○	学校がどのような看護師を育てたいかを明確にして、カリキュラム運営を行っていくことが必要	カリキュラム改正で考え方を文章化し、全職員に配布		カリキュラム会議録 看護学教育課程
3. 教育内容の段階層関連性と配分の考え方	21 教育内容の段階層的関連性、配分の考え方を明示した文書  →学生便覧、履修要項等	○	看護の対象である人間を理解して、看護展開につなげていくため、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の関連性を明らかにする	カリキュラム改正で考え方を文章化		カリキュラム会議録 看護学教育課程
4. 科目・単元構成	22 科目・単元構成の考え方を明示した文書	○	看護の対象である人間を理解して、看護展開につなげていくため、各単元の考え方を明らかにする	制約がある中での科目選定であるが、可能な範囲で科目を設定	科目設定の制約が影響 講師の不足 全体の構成、つながりの見直し	教育課程概要 看護領域別のファイル
5. 教育計画 1) 単位履修の考え方 2) 科目の配列	23 教育計画・単位履修の考え方を示した文書  →学生便覧、履修要項等	○	学生が効果的に学修していくためには、科目の履修方法を考え、配列していくことが必要	教育課程概要の中で、単位の教育計画・単位履修の時期を明確にして記載 適宜、カリキュラム会議で見直し修正		学生便覧 看護教育課程概要 カリキュラム会議録
6. 教育課程評価の体系 1) 単位認定の考え方	24 単位認定の考え方、方法を明示した文書	○	単位の互換性を鑑み、大学・専門学校等で修得した単位を認定することが必要	大学・専門学校等で取得した単位認定は、保助看法の基準に応じて学生便覧に記載		学生便覧 単位認定実施要領

評価項目	資料（データ）		考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
2)評価の体系	25 教育課程の評価をどのように行うかを示した資料	○	定期的にカリキュラム評価を行い、多角的に内容を見直していくことが必要	看護領域毎にカリキュラム評価を実施 時期を1月に固定化	カリキュラム評価の方法を明らかにして、内容を統一	カリキュラム会議録 看護領域担当者
7. 教員の教育・研究活動 1)教員の専門性を高める体制	26 教員の担当科目及び担当時間数	○	看護領域の専門性を高め、学生の学習効果を向上するためには、教員の研鑽が必要	看護領域担当はほぼ固定し、2名体制で看護学を担当 授業は、担当している看護領域を中心に担当し、毎年見直して一覧で提示 授業時間数はほぼ均等に配分	時期によって担当科目が重複	授業進度表 授業担当表
2)教員の自己研鑽を保障するシステム	27 教員の自己研鑽を保障するシステム及び実施状況を記述した文書 研究会・研究活動への経済的、時間的な支援システム及び参加状況研修日の設置及び運用	○		年1回、可能な範囲で教員の専門領域に関連した内容の学会に参加 定期的に年4回の研究会参加を確保	年度予算の制約	復命報告書
3)職員の相互研鑽を保障するシステム	28 職員の相互研鑽を保障するシステム及び活動状況について記述した文書  →授業案検討会 研究会	△		必要な内容については、教務会議に提示することで共有 相互研鑽はできていない	職員の担当している科目の授業参観を計画する	教務会議録
8. 学生の看護実践体験の保障 1)実習施設の選択と開拓	29 臨地実習施設の選択、学生の配置についての方針および施設との連絡・調整をどのように得て指導体制を整備しているかを示す資料	○	学生が看護師として成長していくためには、臨地実習が大きな役割を果たしている 可能な範囲での見学・体験をとって、経験を積むためには、実習施設、臨床指導者の協力が欠かせない	実習施設は学生が効果的に実習できるように選択 病院の募集要項、看護部の説明を理解し、実習施設の理念・看護の考え方を把握	実習施設の理念・看護の考え方を示す資料の整理	臨地実習ファイル
2)実習目的達成のための実習施設との協力体制		○		年度末に、各実習施設に実習の目的・目標・内容を説明し、臨床指導者と共通理解		臨床指導者会会議録

評価項目	資料（データ）		考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
3)臨地実習指導者と教員の協働		○		実習指導者を中心に実習の調整をしており、学生の学習が効果的にできるように協力	実習指導者以外のスタッフの協力と意識改革	臨床指導者会会議録
4)学生からケアを受ける対象者の権利を尊重	30 臨地実習で学生が受け持ちとなる患者の権利とプライバシーの保護について、養成所と実習施設の考え方を示した文書	○	学生が看護者として成長していくためには、臨地実習が大きな役割を果たしている 可能な範囲での見学・体験をと して、経験を積むためには、実習施設、臨床指導者の協力が 欠かせない	各看護学の実習要項を作成 受け持ちを患者には実習内容を 説明し、同意を得ている	看護学実習要項を定期的に見 直していく	看護学実習要項
5)臨地実習における安全対策	31 学生の臨地実習中に発生する事故への対応を示した文書	○		事故の対応については、看護学 実習要項に記載し、対応ルートを 明確化 実習説明で各実習施設に周知 全校性が学校保険のWillに加入 入学時に感染症の抗体検査を実 施 流行に応じて、各ワクチン接種を 推奨	看護学実習要項を定期的に見 直していく	看護学実習要項 Willの使用



IV 教授・学習・評価過程					
評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
1. 授業内容と教育課程との一貫性	1)各科目の位置づけ、内容と当校の教育理念・目標との一貫性 2)当該内容は当該学生にあったものかどうか	○	年度末に、看護領域毎に実習評価やカリキュラム評価を実施し、教務会議で検討		看護領域別のファイル 教務会議録
2. 看護学としての妥当性	1)各教員の当校の教育方針の理解 2)各教員の3観の明確化	○	個人の責任で文献検討をふまえて授業に関する教材研究を実施各看護領域は複数で担当しているため、両方で内容を理解し研鑽	教育内容の他者評価	学生便覧 教育課程概要 看護領域別のファイル
3. 授業内容間の関連と発展	1)内容間の関連を学生が理解しやすいように促しているか 2)他の授業との関連を明確に理解しているか	○	看護教育課程概要で教育内容を明確化年度末に、看護領域毎に実習評価やカリキュラム評価を実施し、教務会議で検討	教育内容を詳細に提示	看護教育課程概要 基礎分野 専門基礎分野 専門分野Ⅰ 専門分野Ⅱ 統合分野
	32 授業内容のまとまりの考え方 各科目の教育課程上の位置づけ・目標を記述した文書  →学生便覧、履修要覧 シラバス	○	看護教育課程概要で教育内容及び進度を明確化	シラバスの詳細化	看護教育課程概要 基礎分野 専門基礎分野 専門分野Ⅰ 専門分野Ⅱ 統合分野
4. 授業の展開過程 1)授業形態の選択	1)各授業内容の特徴を理解した形態を選択できているか	○	教育課程概要の内容を詳細にして提示		看護教育課程概要
	33 教育方法の考え方 具体的に授業内容・方法を記述した文書  →シラバス	○	教育課程概要の内容を詳細にして提示		看護教育課程概要
	34 具体的な授業の展開過程を示した資料→講義計画、演習計画、実習計画	○	授業担当教員の責任で計画を立案	確認が必要	看護領域別のファイル 授業担当者のファイル

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
2) 授業の対象学生構成と指導方法	1) 学生の特徴を理解して指導方法を選択しているか	○	授業担当教員の責任で計画を立案 ・基礎分野 ・専門基礎分野 学校共有の演習については教務会議で検討し実施	確認が必要	看護領域別のファイル 授業担当者のファイル
3) 指導技術の工夫	1) 授業展開を工夫しているか	○	各看護学担当の範疇で作成しているため、全体が見えない状況 学校共有の演習については教務会議で検討し共通理解して実施  教員対象の講師を招いての講習会を実施し検討会の実施を予定		看護領域別のファイル 授業担当者のファイル
	2) 学生への課題は学生への負担を考え、支援しているか	○			
	3) 授業内容や方法の一貫性について教員間で検討し、協力できているか	○			
	35 学生に課す課題や支援の内容を示した資料	○	各看護領域の担当者に一任		看護領域別のファイル 授業担当者のファイル
	36 教員会議録・領域別会議録	○			各運営会議のファイル
4) 教材・教具の活用と開発	1) 教材を意図的に選択し、効果的に活用できているか	○	現在、授業評価を実施し、結果を教材研究に活用している 教員間の教材研究をかねた授業参観を予定		看護領域別のファイル 授業担当者のファイル 授業評価ファイル
5. 目標達成の評価とフィードバック  1) 評価の計画性	1) 計画的に授業評価し、必要に応じて修正・改善できているか	○	授業評価は学科試験と併せて実施している 学生面接で、学生の状況を把握 学生にはシラバスに評価方法を提示 看護学においては、年度末に実習評価やカリキュラム評価を実施		看護領域別のファイル 授業担当者のファイル
	37 授業の展開過程における評価の考え方とその計画を記述した文書	○			
2) 評価結果の活用	1) 評価結果を適切な時期に返却できているか  2) 評価方法について学生に公表し公平性があるか	○	学科試験は適切な時期に返却できている 実習評価は時期を逸し、学生が次への課題を明らかにし評価を活用するとはいえない状況	各教員が意識して早期に実習評価を行う：評価表の構成を変更した 実習中に個人課題を学生に伝達	看護領域実習評価ファイル

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料	
	38 授業評価の結果を整理した資料	○		授業評価の結果を分析し保管し、翌年の授業方法に活かしている専任教員の科目については、各自で評価結果を分析し保管している		看護領域別のファイル 授業担当者のファイル 授業評価ファイル
	39 教授・学習過程における評価のフィードバック状況がわかる資料	○			アンケート結果の提示	看護領域別のファイル 授業担当者のファイル 授業評価ファイル
	40 提出物・試験結果の返却状況	○		試験採点は2週間を目安にして、適切な時期に返却		看護領域別のファイル 授業担当者のファイル 成績一覧表
6. 学習への動機付けと支援 1) シラバスの提示	1) 学生が授業への主体的参加を促すためのシラバスの提示内容になっているか  41 授業のねらい・内容・テキスト・文献などを明示している授業計画を示す文書→シラバス	○		年度末にカリキュラム評価を実施し、内容を見直し詳細に修正		看護教育課程概要 教科書一覧
2) 学習の支援体制	1) 必要時、指導が受けられ、学習する時間や場の提供ができているか  42 学習の支援体制を示す資料	○		放課後の教室使用時間や学習場所の提示、図書室の開放、パソコンの開放、スクールカウンセラーの設置など支援体制を整えている 担任や担当教員が学習を支援 担任会議において学生の状況と支援体制について検討	学年担当と領域担当教員の役割分担	担任会議のファイル

## V 経営・管理過程

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
1 設置者の意思・指針	43 養成所としての主体的意図を明記した文書	○ 地域社会に貢献する有為な看護師を育成し、地域医療の充実にを図る	丹波市看護師等修学資金貸与事業を活用し市内病院への就職を促進	看護学科のある大学の増加と少子化により受験生が減少しており、あらゆる媒体や機会を活用して学校の魅力を広く発信していく	丹波市立看護専門学校設置条例 丹波市立看護専門学校学則施行細則 学生便覧 看護教育課程概要
	44 経営・管理にあたって、管理職にある者の考え方を示した文書	○ 学校の経営・管理方針を作成			
	45 教職員が経営・管理にあたる者の考え方をどのように理解しているかを示す資料				
2 組織体制	46 養成所の組織体制と意思決定システムを明確に規定する文書	○ 行政組織条例等の条例、規則で明確化	学則等に定めのある会議で協議、必要に応じ決裁を起案 会議の内容は記録に残す	市職員と県派遣職員の一体化を図るため各会議で協議	丹波市行政組織条例 丹波市行政組織規則 丹波市決裁規程 丹波市財務規則
1)意思決定機関・意思決定システムの明確性	47 職務分掌を明記した文書	○ 年度はじめに分掌表を作成	年度はじめに分掌表を作成		丹波市立看護専門学校職員業 事務分掌要領 事務分掌表
2)組織構成と教職員の任用の考え方	48 組織の構成と教職員の任用の考え方を明示した文書	○ 市の職員昇任試験実施要綱、職員採用候補者試験実施要項に記載	市の職員昇任試験実施要綱、職員採用候補者試験実施要項に基づき試験を実施	教員の退職に伴う補充に関して、前倒しでの採用を計画	丹波市職員定数条例 看護師等養成所の運営に関するガイドライン 丹波市職員昇任試験等実施要綱 丹波市職員採用候補者試験実施要項
	教職員の選考、資格審査、任免、昇格に関する規定を明記した文書	○		県派遣職員の昇格に関する県との協議のあり方、明確化	
	講師選定の考え方を明記した文書	△	看護師等養成所の運営に関するガイドラインの選定基準に準じて選定	学校の選定基準の明確化	
3)教職員の資質向上についての考え方と対策	49 教職員の資質や役割機能を維持・向上するための考え方や対策を明示した文書	○ 丹波市職員勤務評定実施規程に基づく	丹波市職員勤務評定実施規程に基づき評価を実施 学会、研修に参加資質の向上を図っている。	教員に対する評定項目、目標等の見直し	丹波市職員服務規程 丹波市職員人材育成基本方針

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
	50 教職員の倫理規定、福利厚生について明示した文書	○ 関係条例規則に記載	職場研修の実施 OJTにより事項ごとに協議	研修、OJTの記録の作成	同上 丹波市職員の勤務時間、休暇等に関する条例、規則 個人情報保護法、個人情報保護条例
3 財政基盤	51 財政基盤の根拠を示す資料	○ 看護専門学校特別会計予算書・決算書、決算書附属説明書（年度毎）に記載	収支計画を作成		丹波市一般会計予算書、決算書 丹波市看護専門学校特別会計予算書、決算書
	52 財政基盤についての教職員の理解を示す資料	○ 看護専門学校特別会計決算附属説明書（年度毎） 財源充当表（年度毎）	看護専門学校特別会計の年度毎の決算附属説明書及び財源充当表を資料に説明する予定	教務会議を利用して、わかりやすい学校の財政説明を行う	丹波市看護専門学校特別会計決算附属説明書
4 施設設備の整備  1)整備の考え方と計画性	53 施設整備の考え方と整備計画を示す資料	○ 看護専門学校整備基本計画 専門学校設計と条件書 工事総合図・施工計画書・施工図	地域医療総合支援センター（仮称）と合わせて整備	学校が目指す教育方針に沿った教育が実現できる環境となるよう適宜見直し	丹波市立看護専門学校整備基本計画 同実施設計と条件書 同工事総合図・施工計画書・施工図 備品購入計画書 備品台帳
2)看護学の発展や医療・看護へのニーズ、学生層の変化に対応する整備	54 施設整備の状態を示す資料  →機械器具等の備品台帳	△ 備品台帳 教材等備品購入計画書		備品台帳を早期に整備する	備品管理システム
3)学生及び教職員のための福利厚生の整備		○ 教育を円滑に進めるために必要な施設を整備する	食堂、職員休憩室を整備 休憩時間等を有意義に過ごすためのスペースを設ける予定	実施設計に沿った整備を進める	丹波市立看護専門学校工事総合図・施工計画書・施工図
5 学生生活の支援	55 どのように学生生活の支援体制を整えているかを示す文書	○ 高度化、多様化する社会において必要な生活支援を実施する	学生支援機構・県看護師学生等就学資金・民間奨学金制度、市規則による授業料免除や、スクールカウンセラーによる相談制度、日本看護学校協議会共済制度	学生の生活環境の多様化への対応	丹波市看護師等修学資金貸与条例 丹波市立看護専門学校学則

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
1)学修継続への支援体制	56 設定した支援体制どのように機能しているかを示す資料、データ	○ 各種体制に係る利用者の一覧を作成			
2)学習困難への支援体制		○ 受験生の確保の観点から充実を図る	通学困難な女子学生のための学生寮を設置 男子学生も受け入れられる新寮を整備予定 スクールカウンセラーによる相談	費用対効果の観点から適宜見直しを図る	
4)卒業後の進路選択への支援体制		○ 学生の資質に合致する就職先を選定するよう指導	看護師募集情報の提供 県看護職員募集の説明 面接指導	情報コーナーとして資料整理を行う	看護師募集情報
6 養成所に関する情報提供					看護教育課程概要
1)教育活動に関する関係者への情報提供	57 教育活動に関する関係者への提供した情報に関する書類	○ 地域社会等へ学校の状況等を発信する	問題を抱える学生への個別処遇 面接内容を保存	記者発表等の有効利用	
2)広報活動	58 広報活動の内容と方法を示す資料	○	ホームページを開設 キャンパスガイドを作成 随時報道関係者への情報提供を行っている	広報媒体の整備(キャンパスガイドの更新) 有効な媒体の判定と有効利用	
7 養成所の運営計画と将来構想	59 養成所の運営に関する年間計画、短期計画、長期展望を明示した文書				看護師養成所の指定申請書 丹波市施政方針(年度別) 第2次丹波市総合計画 丹波市総合計画実施計画
1)年間の運営計画と評価	→養成所案内等	○ 関係の計画を共有し、意思の統一を図る	看護教育課程に記載し配布		看護教育課程
2)短期計画		○	各係ごとにスケジュール表(時間割)を作成し職員間で共有	地域の特性や現場の考えを機会ある都度、伝える	丹波市立看護専門学校年間スケジュール表 時間割表 行事予定表
3)中・長期計画		○	指定申請書を常備		第2次丹波市総合計画 丹波市総合計画実施計画 丹波市看護専門学校特別会計収支計画書

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
8 自己点検・自己評価体制		○ 自己点検・自己評価委員会を中心に点検評価を実施	自己点検・自己評価委員会設置要綱を規定し取り組み	評価の公表 外部評価の実施	丹波市立看護専門学校自己点検・自己評価委員会設置要領
1) 自己点検・自己評価の組織	60 自己点検・自己評価の組織体制を明示した文書	○	委員会を設置し、点検評価を実施		
	61 自己点検・自己評価の活動を示した資料	○	委員会で資料を作成中	年度末の評価	
2) 資料、データの収集、蓄積		委員会で収集、蓄積の方法等を検討し確立させる	委員会を開催している	学校全体の取り組みとして実施していく	
3) 資料、データ分析、解釈		委員会において作成する			
4) 課題や改善点への取り組み	62 自己点検・自己評価によって改善された教育活動を示した資料	委員会において作成する			
5) 第三者評価、結果の公表	63 第三者評価や公表の考え方、計画を示す文章	自己点検・評価を円滑に実施しながら外部評価について検討する			

VI 入学					
評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
1. 入学者の選択の考え方と教育理念・教育目標との一貫性	64 入学者の選択に関する考え方、選択方法について記述した文章  →入学試験に関する規定、養成所案内、学生募集要項	○ アドミッションポリシーを作成し、入学者の選抜目的を明確化	入学試験概要及びアドミッションポリシーに基づき、選抜試験と面接を実施 『入学案内』の作成 キャンパスガイドの配布	丹波市の地域医療の拡充に寄与する目的で地域枠試験を実施したが、試験科目の決定プロセスが明確になっていないため、一般試験の科目も含めて議論が必要 他校で実施されている社会人枠試験の検討	丹波市立看護専門学校入学試験委員会設置要領 丹波市立看護専門学校一般入学試験実施要綱 入学案内 キャンパスガイド 丹波市ホームページ
	65 入学者状況  入学試験志願者数  受験者数、入学者数	○	近年の経済状況、看護学科を有する大学の増加により、受験希望者が減少傾向	学校創設の意図を反映し、丹波市内（兵庫県内）を優先 県内就職（柏原病院）と必ずしも一致はしない 各高等学校、予備校で開催される学校説明会へ積極的に参加し志望者を獲得に務めている	入学試験受付簿（試験別） 入学者一覧 入学試験ファイル
	66 学生定員と在籍学生数の比較				卒業後、丹波市内の病院へ就職する学生が増加することを期待
2. 選抜の公平性	67 在学学生の状況  →在学学生数に対する一般入学生 社会人学生 推薦入学生 編入学生の比率	○ 入学選抜は、一連のプロセスを通じて公平に実施されることが必要	入学選抜試験は入学試験委員会を中心に、公平に守秘義務を全うし実施		丹波市立看護専門学校一般入学試験実施要綱 丹波市立看護専門学校転入学取扱要綱
3. 選抜方法の妥当性	68 退学者、休学者、留年者数	○ 募集定員を遵守することで、授業・演習がスムーズに進み、学生の学習効果が向上する最低限の基礎学力がある学生を選抜することが、授業効果を発揮できる	休学者・退学者は少ないがある 休学・退学の要因は様々であり、入学以降に起こる問題もあり、入学試験の内容で選抜するには限界	高校での成績や内申書は学校レベルがあるため公平には評価できない 高校の成績が入学後の成績に比例しているともいい難い 社会人入学者は総体的に成績上位者が多いが因果関係は明らかにできていない	保健師助産師看護師法施行令第14条報告書
	69 選抜方法別の成績の推移	△	学生の問題状況に応じて確認し、一覧表にまとめている		委員会の議事録
4. 入学希望者開拓への取り組み	70 学生募集に関する活動状況	○ 看護に興味関心の高い学生を募集する	学校説明会 オープンキャンパスの実施 近隣及び但馬・福知山方面の高等学校への訪問説明と資料の配付	学校の周知活動だけではなく、魅力をPRできる努力が必要 教育の質を高める努力も必要 当面は校舎新築をPRする	



## VII 卒業・就職・進学

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
1. 進路選択の状況と教育理念・教育目的との整合性	71 卒業時の学生の進路状況 保健師・助産師養成所大 学編入	○ 卒業時の進路選択を明確にすることは、当校の学生の状況を明確にすることとなり、教育目的・教育目標の評価に繋がる国家試験の合格状況は、教育の水準を反映している	3年生担任が整理	進学状況までは把握しているが、卒業後の状況把握ができるよう 卒業時に指導していく	卒業生ファイル
	72 卒業生の就職状況	○	卒業後殆どの学生は病院に就職 学生に対する就職指導、情報提供 就職相談を担当が中心となり 行っている。 卒業前には卒業生の状況を確認	卒業生の就職先のデータ検索 ができる体制を整えていく	卒業生ファイル
	73 卒業生の進学状況	○	2年次末、3年次中間に学生の 意向を確認 ・進学希望先の過去の試験問題 や最近の傾向を進学希望学生に 提示するようしている	・進学後の学生の動向の把握	3年生担任ファイル 卒業生ファイル
	74 国家試験合格状況	○	国家試験合格状況を踏まえ、1 年次からの国家試験対策学習を 計画 担任を2名体制にし強化する 教員は国家試験対策検討会の 研修等に参加して国家試験の動 向を把握している	年度末に評価	卒業生ファイル 国家試験ファイル
2. 卒業時の看護実践能力 および卒業後の活動状 況の評価	75 卒業時の看護実践能力を 評価した結果と分析を記 述する文書	○ 看護基礎教育の中で、卒業後 の活用できる実践能力が育成 できているのかを評価すること ができる	技術は経験録を集計し分析して いる 卒業後学校訪問に来る学生を対 象に聞き取り調査を行っている	訪問してくる・卒業生対象に 行っている聞き取り調査を明文 化し、書類に残していく 本校の目指す卒業生の特性6 項目について、学生の自己評 価から分析する	
	76 卒業生の状況に関して就 職先へ依頼した調査の結 果と分析を記述する文書	○	卒業生が就職している病院から 求人説明に来迎の際、看護部 長・人事担当者から就職後の勤 務状況を確認している	左記の内容を調査資料として 分析できるように書類を作成 する	
	77 卒業生の活動状況を記録 する文書	○	就職先病院から送付されてくる パンフレットから状況を把握して いる	就職先から送付されてくる活動 状況を参考資料として文書管理 していく 卒業生の活動状況を入学案 内・ホームページなどに 紹介 していく	

## VIII 地域社会・国際交流

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料	
1. 地域社会と交流するための体制	78 地域社会と交流する委員会の議事録	×		地域社会と交流する機会が少ないが、学生には機会を提供する努力をしている		
1) 地域社会への貢献とニーズの把握	79 地域住民や施設と連携し健康や看護について啓発・普及活動になるような公開講座等の活動状況	△		地域住民への教育活動は実施していない 老年看護学実習の限られた施設での健康教育を健康福祉事務所の指導の下行う。	実習の一環として実施しているため、対象が限定されている。	
	80 ボランティア活動の実施状況	○		ボランティアの依頼内容と参加状況を把握 平成29年度より、教科外教育計画、学校行事に「地域交流」を設ける。地域でのボランティア活動を通して地域貢献すると共に住民との交流を図っている	積極的に実施するのではなく、依頼があればボランティア活動をしている ボランティア活動を義務化し、地域に目を向けることが出来るようになった	ボランティア活動ファイル
	81 看護の日の行事としての実施状況	△		看護の日の行事への参加を喚起 授業の中で行事の実施を意識付け	学生が参加しているかどうかを把握できていない	
	82 看護師養成所進学希望者への相談の実施状況	○		進学説明会 受験希望者からの電話や来校での相談に対応 近隣高校への説明		施設からの依頼書 業者からの参加依頼文書
2) 地域社会における資源の活用	83 看護学実習やフィールド研究における施設提携・地域社会との連携状況	○		看護臨地実習を実施する施設として近隣施設を活用		実習施設一覧

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
	84 地域社会における資源をどのように活用するかを示す資料	△		成人看護方法Ⅰの授業の一環として、成人期にある人の労働と健康問題について、丹波市内の企業見学を実施している	
2. 国際交流のための体制	85 教育課程において国際的視野を広げる考え方を記述した文書	×		国際的視野を広げるための授業科目は英語のみ 教育理念や目標および卒業生の特性としての明記はしていない	
1) 学生・教員の視野を広げるためのシステム	86 国際交流を可能にする情報システムの設置及び活用状況	○		インターネットを活用できる環境を整備 パソコンの増設	備品台帳
2) 留学生の受け入れ等に関する対応	87 留学生の受け入れ等に関する対応状況 帰国学生や留学生の受け入れ状況 英文での卒業関係書類	×		入学希望者がいない 保助看法で規定されている内容が達成できていない	

## Ⅸ 研究

大学は学術研究の中心的機関であり研究活動は明確に位置づけられている。  
看護師養成所に関しては大学のように位置づけられてはいないが、以下の点においてその必要性がある。

- 看護基礎教育の学問的背景である看護学は発展過程にある新しい学問領域である。  
流動性のある環境の中で教育活動を行うには教育活動全般について批判的、創造的に取り組み常に新しい情報を取り込み創意工夫した教授活動が必要。
- 教員は文献のクリティークを踏まえ、研究成果を活用する能力や現状を分析する能力が必要である。
- 看護実践について常に研究的関心と追求する姿勢が重要。

評価項目	資料（データ）	考え方・方針・目標	現状・具体的な取り組み	課題と解決方法	参照資料
1. 教員の研究的姿勢の涵養	88 研究活動状況 ①紀要・研究業績の発行状況 ②教員の学会入会状況 ③学会発表状況 ④誌上発表状況	△	①研究の位置づけと成果発行物 看護師養成所では大学のように位置づけられてはいない そのため学校のシステムとして紀要を義務付けたり作成したりという取り組みはしていない  ②学会入会状況 正規職員全員が日本看護協会の会員であり、そのことは日本看護学会員という資格を有する		
2. 教員の研究活動の保障と評価 1) 研究活動の保障	89 教員に対する研究活動支援に関する状況 ①研究活動への時間的保障 ②研究費の確保活用状況 ③研究環境状況	△	教員の基本的活動に研究が位置づけられていないことから、研究活動の時間の保障は難しい 当校の図書は、雑誌の保有数が多く、基本的な雑誌や学会誌は購入してあるため活用できる環境ではある 県外出張は1年間に1教員1回は認められている	年間予算の確保 研究活動費の活用	復命書
2) 研究活動の評価	90 研究の協力状況 ①他校との研究ネットワークの状況	○	看護領域別に教員が意見交換して教授活動に反映させる。 学外講師に研究の助言をもらうなどファシリテーターをお願いしている	他校との情報交換の機会をもつ  県内の看護学校間との情報交換の場を持つ予定	
	91 教員の研究成果を示す資料				